

機械・鉄構部門



菱川 明
機械・鉄構事業本部長

基本戦略

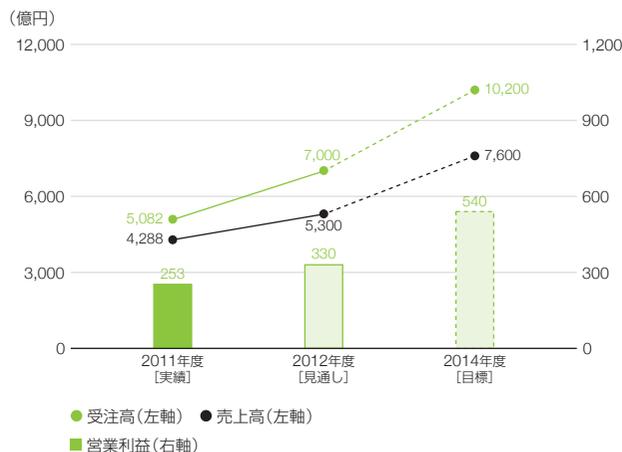
- 事業領域の拡大
- グローバル展開
- 製品競争力の強化

2012年3月期の概況

海外では、インド・中国向けの製鉄機械のほか、マレーシア向け肥料プラントを受注しました。国内では、東日本大震災の影響等により市場環境が厳しい中、被災した機器・設備の復旧工事を受注したほか、料金機械や食品・包装機械も伸長しました。以上の結果、連結受注高は前年度を上回る5,082億円となりました。

連結売上高は、化学プラント、交通システム等が減少したことにより、前年度を下回る4,288億円となりました。営業利益は、売上減少や円高の影響があったものの、事業の再構築等により、前年度並みの263億円となりました。また、製鉄機械生産用設備の拡充を目的とした84億円の設備投資や、地球温暖化防止等の環境保全技術、陸上交通・物流等の輸送技術、鉄鋼・化学をはじめとする各産業の基礎設備、エネルギー供給等に寄与する付加価値の高い製品及び社会インフラ等を提供するため、81億円の研究開発を実施しました。

2014年度 目標



機械・鉄構事業本部と事業ドメインとの関係

事業ドメイン	顧客・市場	セグメント					
		船舶・海洋	原動機	機械・鉄構	航空・宇宙	汎用機・特車	その他(冷熱・工機)
エネルギー・環境	● 電力会社 ● ガス会社 ● 資源企業 (石化・鉄鋼 他)		● GTCC ● 大型火力発電 ● 原子力	● 環境プラント ● 化学プラント			
機械・設備システム	● 基礎産業(鉄鋼 他) ● 自動車 ● 流通 他		● 定置用エンジン	● コンプレッサ ● 製鉄機械 ● 搬送システム ● ゴムタイヤ機械 ● 印刷紙工 等		● ターボチャージャ ● フォークリフト ● エンジン	● 空調機器 ● 工作機械
交通・輸送	● エアライン(空) ● 海運業(海) ● 鉄道(陸) 他	● 商船		● 交通システム	● 民間航空機		
防衛・宇宙	● 防衛省(陸・海・空) ● JAXA	● 艦艇			● 防衛航空機 ● ミサイル ● 宇宙機器	● 特殊車両	



アンモニア／尿素プラント



新交通システム



製鉄機械(熱間圧延設備)

今後の取り組み

2011年度は、機械・交通システム・環境化学事業の構造改革が順調に進捗し、印刷紙工事業が黒字化するなど、「2010事業計画」で進めてきた改革プロセスに目処をつけることができました。2012年度からは、次のステップとして「事業領域の拡大」、「グローバル展開」、「製品競争力の強化」の3点に取り組むことで、成長プロセスを展開・加速し、主力事業の拡大を図ります。

交通システム事業は、アジア・中東を中心に案件が多く、当面は東南アジアの都市交通案件が見込める状況にあります。当社は、信号・制御系技術を強化し、全自動無人運転車両(APM: Automated People Mover)の製造方式改善による軽量化／コンパクト化で製品競争力を強化します。また、Operation & Maintenance事業の基盤強化により、事業領域を拡大し、収益の安定性を確保します。

コンプレッサ事業は、新ガス田開発やシェールガス増産により、顧客の投資意欲は旺盛であり、ガス分野(LNGプラント用等)や石油化学分野(エチレンプラント用等)の需要が伸びています。当社は、事業領域拡大のためガス分野に積極的に対応すると共に、ブラジルでの現地生産拠点設立の検討や、中近東や北米での営業・アフターサービス拠点の強化により、中長期的に事業規模を1,000億円に拡大し、トップ3入りを目指します。

製鉄機械事業は、粗鋼生産量の増大に伴い、市場規模拡大基調が継続しており、インド・中国などの新興国市場の設備投資が活発化しています。当社は、新技術開発により製鉄上流分野へ事業領域を拡大し、新興国での当社が得意とする圧延設備との一括パッケージ受注拡大を図ります。

これらの施策により、2014年度は連結受注高1兆200億円、連結売上高7,600億円、営業利益540億円の達成を目指します。